

District 地区だより News Letter



Vol. 2
2013.8.1

Governor's  News Letter
ガバナー ニュースレター

2013-2014年度

国際ロータリー会長 **ロン D. バートン**

国際ロータリー第 2690 地区 (鳥取・島根・岡山)

2013-2014年度 ガバナー **森本 信一**

Content

- 2~3 ガバナーメッセージ
- 4 ガバナー・エレクトメッセージ
- 5~11 会長エレクト研修セミナー(PETS)
- 12~14 担当地区幹事・委員長挨拶
- 15 地区米山「指定校選定委員会」
文庫通信
お知らせ

城西浪漫館 (登録有形文化財)

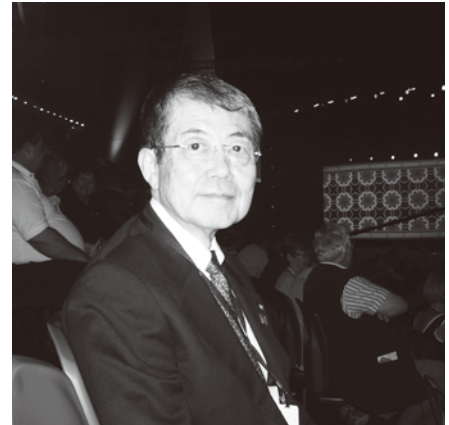
中島病院旧本館。大正6年(1917)建築の木造2階建て。正面にドームを配し、屋根・窓の細かい装飾が特徴で、部屋ごとに異なる材質の大理石を使った暖炉がある。



ガバナーメッセージ

2013年度国際ロータリー 第104回年次大会に参加して (ポルトガル・リスボン国際会議場)

国際ロータリー第2690地区 もりもと しんいち
ガバナー **森本 信一**
(津山IRC)



7月21日(金)

- ・久しぶりに家内と2人、KLM便で一路リスボンへ。アムステルダム乗継便で大会SAAを務められる伊藤PGと遭遇。深夜リスボン着。空港の第一印象は狭く雑然としていた。タクシーでホテルへ。

- ・登録、信任状カード提出を済ませ明日からの本会議、分科会に備えて会場周辺を下見。同期のガバナーや関係する日本人らしき人には出会うが地区の人とは全く出会わず。
- ・日差しは強いが湿度は少ないので比較的過ごしやすい。サングラス、帽子必携。
- ・午後からはフリータイムなので、リスボン近郊の世界遺産を観光バスで見学。ポルトガルの歴史の重みを実感する。



[伊藤パスト・ガバナーと]



[本人の雄姿]

7月22日(土)

- ・地下鉄路線図片手に会場への下見に出かける。(☆☆☆の安ホテルなのでRIのシャトルバス無し)
- ・海岸沿いの広大な敷地にイベントホールとドーム状の本会議場が林立。東京幕張メッセのホール群を思わせる。規模的にはそれ以上か?

7月23日(日)

- ・日本人朝食会(シェラトンホテル6:00AM~): 第2690地区の方々とも同席でき、ヨーロッパスタイルの簡素な朝食をとりながら松宮 RI理事他のご挨拶などを拝聴。(会場の定員以上に参加者が多く、立席や、食事が

撮れなかった同期ガバナーもおられた由。)

- ・開会本会議：ポルトガルの民俗歌謡ファドのソロに始まり、エド・フタ国際大会委員長による開会宣言、関係国の国旗入場、田中RI会長のご一族(ご子息、孫、ひ孫までの家族の総勢23名)のご紹介の後、田中RI会長、リスボン市長、関係者のスピーチがあり荘厳の中にも明るい雰囲気印象深い会議であった。(開会本会議は午前と午後2回挙行されたが私は午前の部に参加)
- ・午後は特に行事もないのでリスボン在住の知人と合流、リスボン近郊を案内して頂いた。



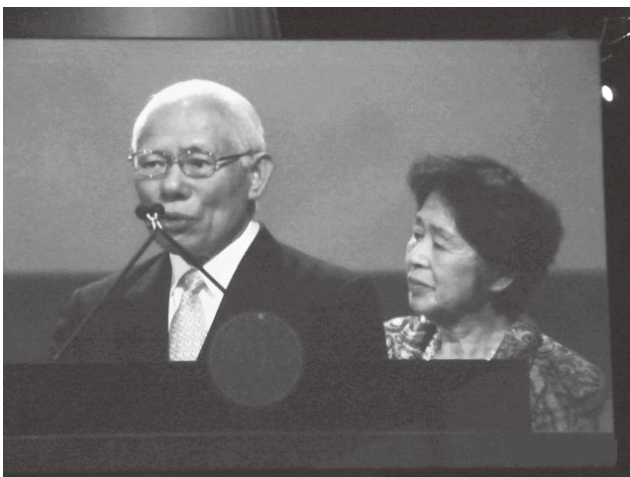
[本人はやや疲れ気味、wifeは元気そのもの]

7月24日(月) ~25日(火)

- ・第2~3回本会議：RIおよびR財団に関する各種報告があった。私は第2回本会議に出席。日本人参加者はめっきり減り、大ホールも空席が目立つようになってきた。

7月26日(水)

- ・第4回本会議並びに夕方の閉会式：参加できなかったが同期ガバナーによると印象深い閉会式であったとのこと。

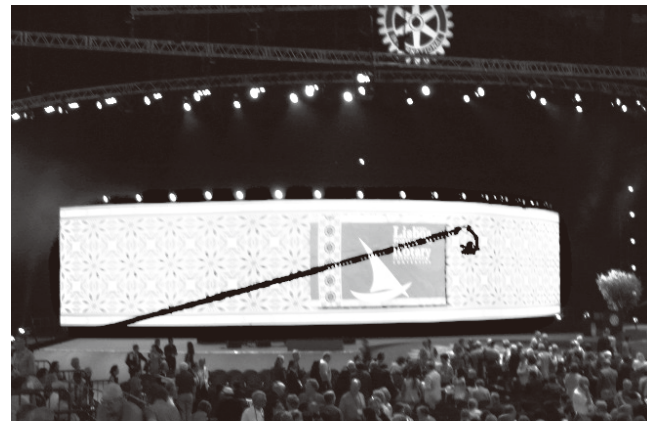


[RI田中会長のスピーチ]



7月26日(水)

- ・リスボンを後にし、ウイーン経由で28日に無事帰国。



[会議場全景]

全体の印象

全世界から約19,000人(日本人2500人、第2690地区90人) 参加した国際ロータリー主催の国際大会。本会議、関連セミナーとも整然と運営され、内容の充実度からいって素晴らしい大会であった。

リスボンの印象

- 歴史の重みは感じるが、都市としては雑然としてヨーロッパの中では中規模。
- 大きな産業がなく、財政危機が深刻。隣国スペインとの軋轢も多い。
- 非常に親日的。女性は全体に大柄でふくよか。美人も多い。
- 食べ物は海産物、タルトが美味。香辛料も少なく日本人にはなじみやすい味。

ガバナー・エレクトメッセージ

会員増強・拡大月間によせて 変化に対応できるのか ～会員増強について～

国際ロータリー第2690地区

ガバナー・エレクト

松本 祐二

(益田西RC)



日本の10代の女子の人工妊娠中絶率は2001年の13(15～19歳女子人口1000対)をピークに2010年には7まで低下しました。中学生や高校生の喫煙率も低下するなど、子供の行動はリアルな交際からパソコンや携帯電話、スマートフォンなどを使った仮想世界で生きていく子供を増やしていると関係者は嘆いています。ここ2・3年は電子メールなどのやり取りも減少気味で、人間同士の関係性の希薄化も叫ばれています。この世代がロータリアンになる20年から30年先を見越した変化や対応をロータリーは準備しているのでしょうか?

2001年当時の総理大臣小泉純一郎は「進化論を唱えたダーウインは、『この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか? そうではない。最も頭のいいものか? そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ』という考えを示したと言われています。」と国会で演説しています。

108年になる国際ロータリーも「変化に対応できる組織」になっているのでしょうか?

私がロータリークラブに入会した1986年、当時は女性会員の入会の問題がありました。結論として1989年の規定審議会で女性の入会が認められ、ロータリーの歴史上で重要な分岐点になりました。2000-01年度の会長のフランク J. デブリンは当時の規定審議会の席上で「代表議員の皆さんに忘れていただきたいのは、(ロータリーが創立した)1905年と1989年はまるで別世界であるということです。従って、ロータリーは移りゆく世界に足並みをそろえるべきだと

考えます」と訴えました。そしてその翌年2万人の会員増加を達成したのです。会員増強の道は開けたと考えたロータリアンもいましたが、変化に対応できなかったロータリアンやクラブも少なくありませんでした。

そして2013年の規定審議会では日本では「ロータリーの金看板」といわれる職業奉仕に関連する、「仕事をしたことがない人または仕事を中断している人を正会員と認める件」が採択されました。この変化に私たちは対応できるのでしょうか?

2010年の規定審議会では Eクラブが各地区に2つずつ認められ、2013年の規定審議会ではこの地区内の数の枠もなくなりました。このような変化に対応してゆけば会員増強は確実なものになるのでしょうか?

ここ10年以上にわたり会員減少が続く日本のロータリー、この第2690地区も日本全体のトレンドに歩調を合わせており、4000人を超えていた会員数も3000人程度に減少しております。第2690地区では2003年の倉敷中央 RCを最後に10年以上も新クラブの誕生はありません。

変化に対応できる組織として生き残り、活性化するための新しいアプローチを探してみましょう。

新しい事業を起こすとき、新たなプロジェクトを始める時、否定的な気持ちで取り組んで成功する確率と、肯定的に取り組んで成功する確率はどちらが高いでしょうか? 豊富な経験を持っておられるあなたの取り組みに期待したいものです。

基調講演(要旨) 2012-2013年度 ガバナー・エレクト 森本 信一 (津山RC)

PETSは会長エレクトの皆さんが次年度会長として必要な研修を受ける必須セミナーです。以下の項目について十分理解してください。

(1) 2013-2014年度RIテーマ

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を
(Engage Rotary Change Lives)

わかり易いが一方含蓄のあるテーマです。このテーマの意味するところを会長エレクト各位は考えて下さい。次年度は地区スローガンを設けずRIテーマ一本でいきたいと思ひます。

(2) RIの戦略計画(Strategic Plan)

ロータリーをより良くしようという構想の下に、2010年に始まった戦略計画は2013年1月に中間報告が発表されました。



戦略計画：中央がビジョン 上半分が優先項目 下半分が中核となる価値観

これには3つの優先項目があります。

- ・クラブサポートの強化
- ・人道的奉仕の重点化と増加
- ・公共イメージの認知度と向上

(3) 中核となる価値観 (Core Value)

- ・奉仕 (Service)
- ・親睦 (Friendship)
- ・多様性 (diversity)
- ・高潔性 (Integrity)
- ・リーダーシップ (Leadership)



(4) 2013-2014年度ロータリー財団の目標

- ①ポリオを絶滅し、ポリオの無い世界という夢を形にする。
- ②新しい補助金モデルの導入を成功させ、画期的な未来の夢計画を全世界で実施する。
- ③より公平で平和な世界を築くため、革新的なプロジェクトと創造的なパートナーシップに参加する。
- ④年次基金、恒久基金、ポリオプラス基金を支援し、ロータリー財団が自分たちの財団であるという自覚と誇りを築く。

(5) 心に残るロータリー体験(My Rotary Moment)

- ・田中作次 RI会長は、ロータリーと自分に係わる具体的な体験を広く紹介することを推奨されています。
- ・ロータリーの良さを多くの人に知ってもらうチャンスとなります。
- ・3分(600字)程度のスピーチで十分です。

(6) 2013-2014年度地区目標

最重点目標：会員増強 各クラブ5%の増強(3255名達成)

重点目標：

- ・RI会長賞の取得：地区内各グループ 1件申請
- ・未来の夢計画推進：地区内提案件数 40件以上
- ・新世代活動の推進：インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ 各1クラブ以上新設
- ・ロータリーカードの推進：地区内達成率 40%以上
- ・公共イメージの向上：クラブの奉仕活動をメディアに公開 各クラブ2件以上
- ・R財団への貢献：
 - 年次寄付 140\$以上
 - 100%ポールハリスフェロークラブ 地区内 2クラブ以上
 - 恒久基金(ベネファクター) 地区内30クラブ(120人以上)
- ・米山記念奨学会への貢献：
 - 普通寄付 5000円/人 特別寄付10,000円/人
 - 米山功労者 地区内50クラブ(200人)以上

会長エレクト研修セミナー(PETS) 2013.3.2~2013.3.3

クラブ会長のあり方

次期地区研修リーダー 小林 完治

(岡山西南RC)

ロータリーは大変革期にあります。

ご存知の様に、2017年ロータリー財団は創立100周年を迎えます。国際ロータリーとロータリー財団は 奉仕の第二世紀にむけて「ロータリーをより良くする」為に協働して初めての大変革を進めています。

2007年「国際ロータリーの使命」の改定、同年「ロータリー財団の使命」も改定され、また、共通の「公式標語」、「中核となる価値観」も示されて、ロータリーの基本理念として方向が定まりました。

クラブ会長の責務: ロータリーはクラブが基本です。

世界全地区で財団の新補助金制度である「未来の夢計画」、戦略計画が実施されます。戦略計画により「ロータリー・クラブ」が未来に向けて成長し、地域でも、又 国際的にもより高く評価され、ひろく認知され「ロータリーが新しい次元に昇華する」事が期待されています。

RIの戦略計画と3つの優先項目(クラブのサポートと強化、人道的奉仕の重点化と増加、公共イメージと認知度の向上)の実現のために、地区とクラブのために用意された新しいリソースの活用が大いに役立つと思います。

また、「ロータリークラブ・セントラル」の機能を会員アクセスを通して利用する事もお勧めです。自クラブの情報を入力し、地区や他クラブの活動状況やプロジェクトをオンラインで知る事が出来ますので活用して下さい。

国際ロータリーの未来は、皆さんのクラブの有り方、そしてクラブは会長のあり方次第で決まります。

国際ロータリーは、世界で200ヶ国、34,000のロータリークラブが活性化し、グローバルなレベルで存在感を増し、公共イメージを高めて、世界で50番以内の財団として、国際的ブランド化(Branding) を目標としています。

2013-14年度の年次テーマは「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を(Engage Rotary Change Lives)」です。森本信一ガバナー・エレクトはRIテーマを地区スロガンとし、2013-14年度の地区目標を示されました。

クラブの長期的な計画、戦略計画の実行を; 地区の最

重点目標は 各クラブ会員の5%増強です。

ロータリークラブ会長の役目はクラブを活性化し「効果的なクラブ」とすることです。単年度制のロータリーですが、3-5年の長期的視野で、クラブの戦略計画を立案する委員会の設置が必須課題です。例えばビジョン委員会を設け、クラブの総意をまとめながら、毎年クラブのビジョンを練りあってまとめ、長期計画を立て、戦略計画を定め、それを受けて当年度会長は年次目標達成への行動計画をたて実行することをお勧めします。



「効果的なクラブ」のための要件は、①会員基盤の維持・拡大、②地元地域、海外で奉仕プロジェクトを実施し、成果を挙げる、③資金面および奉仕プロジェクトへの参加を通じてロータリー財団を支援する、④クラブレベルを超えてロータリーに奉仕できるリーダーを育てるなどです。

会員基盤の維持・拡大のために、クラブは①地域社会の特徴・ニーズに込えているか、会員構成は②五大奉仕とくに職業奉仕のために、職業の多様性は活かされているか、③年齢、性別はどうか等を検討し、地域全体により良い影響を与えるよう、ロータリーの特徴を活かすことが大事です。クラブのビジョン実現するためには、クラブ会長のリーダーシップが求められます。

RI&R財団の財務と地区の夢計画

地区ロータリー財団委員長

鳥居 滋

(岡山東RC)

本日は、ロータリー財団のグローバル補助金についての取り組みをお願いし、財政面からの現況の理解と夢計画が現在どう走っているか、それを踏まえて我々の地区としてどう取り組めばいいかということに触れていきたいと考えております。

まず現在のRIの収入面がどうなっているかということですが、一昨年は84億円、昨年は66億円ということで、昨年の実績ではかなり収入が減っております。その主な原因は、投資収益の激減です。ポリオ・プラス基金の運用は国債だけで収益は国債の利率の変動に依存しますが、マイナスになることはありません。寄付のほうは、2011と2012年度の2年を比較してみると、年次プログラム基金と恒久基金は少しずつ増えていまして、ポリオ・プラス基金が減ったことと投資収益がマイナスだったことの二つが効いて前年度から比べると寄付総額としては見かけ上減っているというかたちになっております。

夢計画ですが、R財団の夢計画のこれまで三年間走っている現状はどうかということがございます。そのベースとなる年次寄付ですが、日本は現在1人100ドルという目標に対して129ドル、これは世界で4番目にあたります。1位は昨年と変わりませんが、台湾、韓国、カナダ、日本の順番です。一昨年はロータリアンの数が、米国、日本は若干減っているのですが、寄付は増えています。

現在パイロット地区は100地区ですが、実際に動き出しているのは95地区でございます。この三年間で申請件数は新地区補助金に関しては若干三年度目が減っております。先般1月にサンディエゴで地区R財団委員長の研修会が行われ、申請件数の少ないグローバル補助金をもっと積極的に活用しましょうと指示がありました。グローバル補助金は人道的プログラムがメインになりますが、教育プログラムも実施できます。95試験地区で実際にグローバル補助金プロジェクトとして承認されたのは、人道的奉仕プロジェクト約80%、奨学生14.5%、職業研修約5%という割合になっております。地区補助金では、プロジェクトの分野が、教育・健康・地域開発に集中しております。

これがグローバル補助金になりますと、水と衛生が大半で、その次に基本教育と識字率向上、疾病予防と治療、このあたりが大きな割合を占めております。



次に、我々の第2690地区ではどうかという事ですが、第3ゾーンのこれまでの寄付の実績は、2月末現在では寄付額が今年度は減っていますが、これは東日本震災復興基金への用途指定寄付が減ったことが関係していると思います。その他の年次基金・恒久基金への寄付は例年以上に増えております。

そして、森本年度のDDFについては、現在ロータリーレートが92円ということですので、昨年度実績程度の予算でプログラムに取り組めることと思います。

松本、佐藤年度の地区補助金に関しても昨年と同じくらの予算が準備できると思いますので、応募していただければありがたいと思います。

地区補助金については、今日お集まりの会長エレクトの皆さんが、その次のノミニーの方の支援にまわっていただいて、新しいアイデアを練っていただければありがたいと思っております。

会長エレクトの皆さんには、次々年度のプログラムをノミニーの方と検討できる協力体制を構築していただくことが、クラブの戦略計画を立てる上で重要であることをご理解いただきたいと思います。準備には1~2年という時間が必要になるケースもありますので、その点をお含みおきいただいて進めていっていただければありがたいと思います。

今日お集まりの会長エレクトの皆さんには自分たちの年度、来年度および次の年度のためにもお骨折りいただきたいということでございます。

会長エレクト研修セミナー(PETS) 2013.3.2~2013.3.3

米山記念奨学会について

米山記念奨学会理事
葛尾 信弘
(松江東RC)



只今御紹介戴きました葛尾信弘です。今後2年間宜しく御願ひ申し上げます。今まで理事は御当地津山R

C森高正PDGが3年間お務めになり、改めて感謝と敬意を表します。

さて、本日御参集の皆さんは次年度クラブ会長としてリーダーシップを存分に発揮して戴きたい!『ロータリーの原点はクラブそのもの』と銘記して頑張る!と心からエールを送ります。

その上で、皆さんに是非とも、RIの中で日本のロータリーが誇る『米山記念奨学会』について充分ご理解を深めて戴きたい。先ずDVD『ひろがれ!人の輪づくり!』を上映し、後程追加でご説明致します。このDVDには2009年度私のガバナーの時、ホームカミング学友として地区大会松江に参加して戴いた林維宏さん(岡山南RC、現台湾学友会理事長)や後述のホンヨック・ブサコーンさん(出雲中央RC)らが登場して参ります。

皆さんからの米山記念奨学会への浄財は毎年13億円程度で、その大部分82.2%は奨学金に充当されます。近年、経済不況のため寄付が減少傾向で年間採用数が次年度より800人から700人に減少する事は誠に残念であります。

DVDで御覧の通り、最大の特徴は『世話クラブ、カウンセラー制度』により『顔の見える奨学会』です。奨学生は普通の大学生活では得られない『出会いと交流』を通じ日本人の心、文化、伝統に接し、平和を求めるロータリーの心を学びます。一方ロータリアンも一人の外国人奨学生を通じ色々学びます。私も若い頃カウンセラーを務め今も交流を続けています。お父さん!お父さんと呼ばれて、また息子、娘が増えたようで幸せな気分になります。

米山記念奨学事業は1992年東京RCから始まり、60

年の歴史を有し約17000人の奨学生を育てました。日本全国のロータリアンが手を携えて行っているこの奉仕事業は2005年RI理事会で『これまでの米山記念奨学事業が果たしてきた世界理解と平和への貢献を賞讃する』と議決がなされ、正に日本のロータリアンが世界に誇る奉仕事業であることが認められたのであります。

次年度米山記念奨学生新規採用は519人、倍率約3倍、国籍はDVD・豆辞典の通り。当地区では28名応募、15名採用(中国11名、韓国2名、バングラディッシュ1名、ベトナム1名)、継続者4名、計19名が決まりました。地区内67RC中3分の2弱しか奨学生がいけない事になりますが近隣の学友や奨学生を招いて積極的な交流をお願い致します。因みに今まで一度も世話クラブでなかったクラブが数クラブある様です。

この奨学事業の目的、使命は『人づくり』であり、将来、日本と母国とを結ぶ『懸け橋』となって活躍しロータリーの良き理解者の養成であります。

それは、ロータリーが目指す『平和と国際理解』そのものであり、その成果は巣立つた学友の活躍となって着実に現れています。(米山豆辞典17頁)

日本国内を初めとして台湾、韓国、中国、タイに学友会が次々と誕生しました。

タイ学友会創立に奔走されたホンヨック・ブサコーンさんをホームカミング学友として地区大会に招聘準備中です。

彼女は奨学生として島根大学を卒業後、地元で算盤生産全国一の横田町役場に就職し、算盤大使として『ソロバン』をタイに紹介し普及に努め、現在はタイ・パナソニック社で活躍中です。

最後に財務についてハイライトよねやま155号によると、下半期は好調、普通、特別寄付共に前年同期に比し、5.2%、4900万円増、豆辞典11頁の税制上の優遇措置をご利用戴き、今後とも、本奨学会事業に絶大なる御支援を賜ります様、心から御願ひ申し上げます。ご清聴ありがとうございました。(平成25年3月2日)

2013・Rotary・San Diego

元国際ロータリー理事
渡辺 好政
(児島RC)



ここ数年、私のロータリーの1年は、1月に米国西海岸のサンディエゴで開かれます国際協議会(IA)から

始まります。このIAでは、全世界の地区ガバナー・エレクト(DGE)の皆様が集まられますし、また、元RI会長をはじめ、多くのシニア・リーダーの皆様がそれぞれのお役目を持って参加されます。私の任務は、Past Officers Reunion(POR)というRIシニア・リーダーの同窓会のような集まりと、本年6月にポルトガルのリスボンで開催される2013年国際大会の大会委員としての当該委員会出席でした。

IAの主役は、2013-14年、"Engage Rotary Change Lives"「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」のテーマのもとに、全世界の120万人のロータリアンの先頭に立って奉仕活動に邁進されるRI会長エレクト(RIPE)のRon Burtonさんです。森本信一 DGEはRIテーマを地区テーマとされました。

Ron RIPEは、1979年、米国オクラホマ州のノーマンRCに入会后、1年半位して、例会に出席しなくなり、ほとんど、退会したような状態でした。Ron RIPEは、当時を振り返って、①例会のある木曜日はとても忙しかった、②例会の食事は美味しくなかった、③例会プログラムにはうんざりしていて、④何もすることがなかった、などと述懐しておら

れます。しかし、クラブの次期会長から声を掛けられ、クラブのロータリー財団委員長になるように頼まれたことから、Ron RIPEのロータリー・ライフに大きな転機がやってきて、入会5年目の1983年にクラブ会長に選出され、その年、カナダのトロントで開かれたRI国際大会に行き、Skelton次期RI会長にお会いし、ロータリーに目覚め、その2年後、地区ガバナーに選出されました。

ほとんど、退会を決意していたRon RIPEにとって、クラブの役職、国際大会出席はロータリーの転機となりました。素晴らしいRotary Momentでした。

田中作次RI会長は、世界中のすべてのロータリアンに、とりわけ、クラブのリーダーの各位に対して、ご自身のロータリー・ライフを振り返って、素晴らしい転機(Rotary Moment)を想起すること、そして、ご自身にとってのロータリーを3分間くらいで他の人にお話しされるよう奨励されています。

そして、ぜひ、リスボンの国際大会に、皆様には、クラブのロータリアン、ご家族ともどもご参加されますようお願い申し上げます。リスボン国際大会では、文字通り、国際的なRotary Momentが皆様をお待ち申し上げております。

皆様、「リスボン・マン」から、切なる、心からのお願いです。今年、6月には、ポルトガルのリスボンでお会いしましょう!

最後に、会長エレクトの皆様には、本年7月から、クラブ会長としてリーダーシップを発揮され、さらに魅力あるクラブへと発展されますことを願っております。

特別講演

「青少年の心の風景について」

学校法人美作学園理事長 藤原 修己



会長エレクト研修セミナー(PETS) グループディスカッション

会員増強に向けて

第1・2グループ

カウンセラー
直前ガバナー

伊藤 文利
(倉吉 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐

田邊 賢二
(鳥取北 RC)

副リーダー
次期ガバナー補佐

金山 博真
(米子南 RC)

このグループでは全13クラブの内、この5年間で会員数が純増したのは3クラブ、現状維持は2クラブ、純減は8クラブであった。

減少の原因は、大きく次の3つに集約できる。

- ①会員企業・事業の経営環境の悪化
- ②会員本人および家族の健康上の問題
- ③会員の高齢化

今後の増強に向けて以下のような意見が集約された。

- ① 同一人を同じ地域内のクラブ同士で勧誘バッティングし、自身の人間関係を考えると、どちらにも入りづらいので結局入らない。
- ②若い人を対象にする。
- ③会費の納入方法を検討したい。
- ④地元をよく見て、新規出店進出などに注意する。
- ⑤ローターアクト関係への声かけ。
- ⑥商工、教育、医療関係以外の分野の人へのチャレンジ。

- ⑦増強担当がしっかりとした戦術、作戦をたてて実施していく。
- ⑧女性会員を入れるために、きっかけとしてまず卓話に呼ぶ。
- ⑨ロータリーの理念等も大事だが、会員個人のパフォーマンスも大事。つながりや、しがらみも活用する。

純増クラブには次のような特徴的な取り組みが紹介された。

- ①「チャレンジ100」というスローガンを掲げ、会員数100名を目指そうと具体的な目標を示して、常に全員の意識づけを行っている。
- ②会員数は少ないが、アットホームでファミリーな環境がかえって退会しにくい雰囲気を作っている。月1、2回の増強ミーティングで絶えず現況をチェックしている。
- ③増強をテーマとしたIDMを開いている。土地柄、出先機関の社員の転勤が多いが、後の補充をきちんとする。

第3・4・5グループ

カウンセラー
バスト・ガバナー

山本 茂夫
(出雲南 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐

大谷 公夫
(松江 RC)

副リーダー
次期ガバナー補佐

吾郷 紘一
(出雲南 RC)

現在の会員減少の原因について次の発言があった。

- ①経済問題: 日本経済の悪化、企業の業績の悪化、経費節減、仕事との両立困難、高齢化、後継者不足、廃業退職、病気等、人口減少。
- ②人の変化: 個人の価値観の変化、孤立化、組織に入りたがらない、奉仕活動に関心がない。出席への強要を嫌がる。

- ③ロータリアンの変化、変質: 基本的な規範の緩和傾向『I Serve』『出席義務』『職業分類』(一業種一人)ステータスの低下、質か量か。
ロータリーの活動の意義 達成感がない。
例会の魅力不足 例会が楽しくない。
ロータリアンのロータリーに対する意気込みが不足
本気で増強活動をしているか? 一部の会員のみ熱心で、他の会員は無関心である。

第6・7グループ

カウンセラー
バスト・ガバナー
小林 完治
(岡山西南 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐
落合 清三
(井原 RC)

副リーダー
次期ガバナー補佐
中田 利幸
(倉敷水島 RC)

- ①クラブの過去5年間の会員数の変動
第6グループ：増1、減42 計41人の減少→現在の会員数305名
第7グループ：増8、減50 計42人の減少→現在の会員数320名
- ②会員減少の要因
会員意識の低下、新入会員のモチベーションが上がらない、事業参加率の減少。
経済不況(水島コンビナート周辺の不況連鎖がみられる)
若い人の団体行動に対する意識低下。
候補者名簿の作成不足。
- ③過去の増強取組
入会候補者に卓話を依頼する。
退会者の後継者を勧誘する。
若い人が言いたい事が言える会を作り活動をする。

未充填の職業分類を補填する。例会の充実を図る。

- ④高い効果
会員増強パンフレットを作成し勧誘に活用する。
衰退の著しい商店街の活性化を図るコミュニケーションを行う。
会員が一丸となって退会防止と会員勧誘に動く。
JC卒業生の減少により、各RC同士での取り合いを止める。
発足時の原点に戻り、会員の意志疎通を図る。
退会者に後継者を入れてもらう。
- ⑤今後の取組
増強のためのプログラムを作成し会員相互に実行する。
女性会員の入会を促す。

第8・9グループ

カウンセラー
バスト・ガバナー
森 嵩正
(津山 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐
高矢 満雄
(津山西 RC)

副リーダー
次期ガバナー補佐
糸島 達也
(岡山東 RC)

会員減少の要因は多い順に、高齢化による体調不良23%、ロータリーの魅力が実感できない19%、経済環境の悪化17%、会員同士の人間関係の欠如12%、会費の負担6%であった。

討論内容：

- ①奉仕には財源の確保が必要で、積極的に新会員を増強する必要がある。
- ②周年記念行事で市民公開講座を行い、メディアを通じて積極的にロータリーの魅力を市民に伝えたい。
- ③質より量の現在の方針に疑問を感じる。会員自体の体質改善をしてロータリーの魅力を高めたい。地域によっては経済環境が厳しく、努力しているが増強に結びついていない。

- ④入会したら積極的に声かけを繰り返し、うまく行っている。JC出身者への勧誘を積極的にしている。サッカーチームと協働で行事をし、会員外への職場訪問をして認知度を高め、全員でプロジェクトチームを作り成功した。
- ⑤入会3年未満の会員が毎月夜間の親睦会をするようになって、若い人の退会が減っている。
- ⑥ガバナーが出せるクラブを目指して、30名の増強を目標に3年かけて取り組んでいるクラブがある。備前RCは前年度の会長さんが、40周年を機会に、本職と同じほど会員増強に力を入れられたら、20数名入会した。

第10・11グループ

カウンセラー
バスト・ガバナー
延原 正
(岡山南 RC)

リーダー
次期ガバナー補佐
藤原 健補
(岡山旭川 RC)

副リーダー
次期ガバナー補佐
浅野 敏美
(岡山西南 RC)

“元気なクラブは目標がしっかりしている”

「会員増強」はRCの永遠のテーマであります。2012年～3ヶ年、同様のテーマに取り組まねばなりません。10・11グループはフリートーク形式のもと「増強」に対しクラブ方式や成功事例をあげ、過去の失敗を薬として良きアイデアを生み出しています。

全てのクラブが苦労の連続です。しかし一つの目標を立て全員が危機感を共有し、何年後には目標達成に全力で取り組む姿に頭が下がります。(敬意を表します。)IMで学んだ心が宝となり、財団事業で身障者への奉仕によって育った友情が良き友に伝わり、その勢いで新入会

員へと発展した事の発表がありました。自分が自立し「その地域にロータリアンとして、いいことが出来る人になる。これをなくしてロータリーの意味がない」と教えを賜りました。前述の如く人間は多くの友人を欲し、世の為、人の為に役立ちたいと望みを抱き、こんな良き心を知ってもらいたい、そしてこれらを共有する素晴らしい心の持主が世の中にはたくさんいるのだという事を発見しました。

いい事をすれば見ている者が居り、それをもっと効果的にするにはメディアを利用すべきでありましょう。他のセクションと同様「増強」は大変だと悩み行動しなければ何時になっても増強は実らない。

担当地区幹事 委員長挨拶

地区ロータリー財団委員長

鳥居 滋



今年度から、ロータリー財団の新しい「未来の夢計画」が世界中で実施されます。これまで、パイロット地区として選ばれた100地区が、この新しいプロジェクトに、3年間取り組んできました。

その結果、新地区補助金を活用する地区レベルでの奉仕プロジェクトでは、多くの奉仕企画において工夫がなされ、概ね成功を収めつつあるように思われます。これからの課題として、それぞれのロータリークラブが、さらに斬新な奉仕の企画で地域社会に貢献することが期待されています。

森本年度では、そのような斬新な工夫でもって、クラブの奉仕活動が一層充実したものになることを期待しています。

地区代表幹事

脇 利幸



前年度に引き続き、森本年度も地区の最重要目標として5%の各クラブ会員増強を掲げています。

決して明るくない日本経済を考えれば、5%といえども仲間を得ることは容易ではない事でしょう。そこで、重点目標のひとつである「公共イメージの向上」の活動が鍵となります。

ロータリークラブは、地域でどんな存在に見えるのでしょうか。

一人でも多くの方が、仲間になりたいと思えるでしょうか。

我々は常にロータリーソング「手に手をとって」を口ずさみ、どんな時も笑顔を決やすまいと思います。

この1年、皆様のご協力とご支援よろしく申し上げます。

地区会計長・地区資金委員会委員長

須江 英典



会員数の減少等、厳しい地区財政ではありますが、省力化、簡素化、合理化の推進による支出抑制、会員増強による収入アップを図り、また予算配分を再検討しながら健全かつ適正な会計処理を行ってまいります。奉仕の理想の実現に向けて、各クラブが大きな前進の年になるよう、微力ではありますが精一杯がんばりたいと思います。会員の皆様には、ご支援、ご協力のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

米山記念奨学会委員会委員長

治郎丸 清志



米山記念奨学会は、日本の全てのロータリアンの寄付で運営されている日本で学ぶ海外留学生を支援する国際奉仕事業です。今年度の奨学生採用数は全体で700名、そのうち2690地区は21名の予定です。寄付金額の多い地区により多くの奨学生の採用枠が割り当てられる仕組みです。今年度の地区目標は普通寄付一1人当たり5,000円、特別寄付一同10,000円です。各クラブには、寄付金の増進をお願いいたします。

地区補助金小委員会委員長

資金推進(ファンド・レイジング)小委員会委員長

神崎 信輔



ロータリー財団は、皆様の「寄付」を資金とし、皆様の「プログラム参加」によって地元及び国際社会に貢献しています。資金推進小委員会は、寄付金の地区目標達成のため、皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。地区補助金小委員会は、「プログラム参加」として、クラブ提唱の地区補助金26プロジェクトの申請を行いました。プロジェクト実施により、地域社会に貢献し、ロータリーの公共イメージが向上することを願っています。

財団学友小委員会委員長

清田 寂順



ロータリー財団が長年にわたり奨学金を提供してまいりました。未来の夢計画では、教育を支援しやすくするため規定を簡素化し、これまでより幅広い機会を提供しています。奨学生派遣事業は、将来を担う青少年

たちを、地域から世界に貢献できる人材に育てることを目的としています。前年度は永末藍（岡山丸の内RC推薦）、海野歩未（岡山東RC推薦）のお二人が新地区補助金奨学生に決まりました。本年度は、2014年～2015年の申請書について各クラブの推薦を通じて2014年2月に受理し、3月には面接・語学スピーチ等による選考会を行います。地区の皆様方には、よろしくご理解をいただいた上で、優秀な人材を推薦していただきますよう、お願い申し上げます。

ポリオプラス小委員会委員長

額田 雅之



ポリオはポリオウイルスが人の口の中に入って腸の中で増えることで感染します。

増えたポリオウイルスは便として排泄されこの便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。

腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み主に手や足に麻痺があらわれ一生残ることがあります。日本では1980年の1例を最後に新たな患者は出ていません。海外ではパキスタンやアフガニスタンなど南西アジアやナイジェリアなどアフリカ諸国で発生が見られるようです。一日も早いポリオ撲滅のための温かい寄付をお願い致します。

ロータリーの友地区代表委員

小原 卓也



地区代表委員は、「ロータリーの友委員会」の構成員であり「ロータリーの友」に関するガバナーの代理者として、ガバナーの意向を踏まえた建設的な提言を行い、地区及び地区内クラブの活動や情報収集に努め「友」誌の編集に協力する事が、任務とされています。

本年度は、「友」誌、友愛の広場・卓話の泉等への投稿依頼及び、各クラブの週報、会報をロータリーの友事務所に送付していただける様、呼びかけて行きたいと思いません。

雑誌・広報委員会委員長

田中 勝子



地区雑誌・広報委員会は、前年に引き続き、年度初めの8月3日に事業計画の説明を行い、二神典子編集長によるロータリーの友の認知度の向上の為の講演会開催、新入会員3年未満の方の「友」の感想発表、各ク

ラブの活動の様子等、雑誌へ投稿依頼しさらなる関心を深めてもらい読書率のアップと質の向上につとめると共に、広くメディアにPR活動を推進して参りたいと思いますので、皆様方のご協力とご指導をよろしくお願い致します。

新世代 RYLA委員会委員長

日笠 晴夫



本年度の事業に関しては、インターアクトとローターアクトを中心に、12歳から30歳までの新しい時代を担う青少年に有益となる内容を予定しています。

上記青少年が、将来地域のリーダーとして活躍していただくために、欠かせない自己研鑽型のプログラムを用意させていただきます。この事に関し、実績のある講師を招聘する予定です。具体的な内容に関しては、現在検討中です。実施場所に関しては、岡山県津山市を予定しています。実施日に関しては、他の地区事業と重ならないよう調整し5月末を予定しています。

青少年交換委員会委員長

近堂 申洋



日本のRCによる最初の派遣は1962年でした。ちょうど、映画『ALWAYS 三丁目の夕日』の時代です。対日戦闘で失明した豪州のD.ファーカー氏が「和解と親善のために日本の若者を招待したい」と提案したのがその発端でした。このプログラムの歴史に思いを馳せた時、感謝と尊敬の念と同時に、意義の重要さを感じます。世界平和という理念を背負って双方から派遣される学生達に精一杯の支援をしたいと思いません。

皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

インターアクト委員会委員長

川上 昌俊



インターアクトも昨年で、誕生して50周年を迎えました。

RI第2690地区では18のIACが災害時の復興支援、ボランティア活動など社会的ニーズの中で地域での活動や海外での奉仕活動まで幅広く活動しています。生き生きと活動している高校生を見ていると「奉仕活動」などとは無縁だった頃の私と比較してしまいます。更なるインターアクトの発展のため、ロータリアンの皆様の益々のご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。

ロータリー・アクト委員会委員長

長谷川 隆嗣



1968年にロータリー・アクトクラブが創立され現在地区内のクラブは、8クラブ約100名の18歳から30歳迄の男女が、ロータリーの奉仕を実践しています。

本年は、「力」を地区ターゲットとして活動いたしますが、人数が減少傾向にあります。

提唱ロータリークラブの皆様は日頃からご指導・ご支援を頂いていますが、提唱クラブ以外の皆様方からも会員をご紹介頂き奉仕のパートナーを増やしていきたいと思っていますので、ご協力をお願い致します。

職業奉仕委員会委員長

荻田裕也



「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる～He profits most who serves best」という職業奉仕の理念をもう一度、自分の中にしっかりと受け止め、ロータリアンとして、また、職業人としての自覚をもって行動してまいります。

そのためには、自分の仕事に誇りを持ち、道徳的レベルを高め、そのことで、仕事を通して世の中のお役に立てるように努力することが大切です。まだまだ未熟ですが、よろしくお願ひいたします。

社会奉仕委員会委員会

櫻井 健一



私達の愛してやまない地域社会が、より住みやすく、生き生きとしたものにするべく、毎年度各クラブでは趣向を凝らし、創意工夫の限りを尽くして社会奉仕プロジェクトを実施されています。

そこに新地区補助金制度が投入され、事業の展開もよりダイナミックになってまいりました。

それぞれのクラブにおいて、地域にとって今、最も重要であるとして企画されたプロジェクトの趣旨を、メンバー一人一人が十分に理解し、実践し、さらには積極的な広報活動を行えば、RCがより一層地域社会に価値ある存在として発展していけるものと思います。みんなで汗をかいてがんばりましょう。

国際奉仕委員会委員長

友末 誠夫



二回目の地区委員長を受けることになりました。

初回はRC入会后間もなく唐突の指名を受け、暗中模索の一年間でありますが、ロータリーの国際奉仕活動の一部分を学ぶ

ことが出来、貴重な経験をしました。

特にGSE (Group Study Exchange)プログラムでは地区内の多くのRCの地域毎の民間外交にロータリーの存在性を実感しました。

今年度のRIの行動テーマ "Engage Rotary Change Lives"です。日本語では"ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を"と訳されていますが、「ロータリーに真面目に付き合いえば生き方が変わるよ」と、今年度のロン D.バートンRI会長の強い願望意思が発せられていることは確かです。

委員の皆様のご協力とご協力で今年度のテーマを国際奉仕活動で実践してみましよう!

クラブ奉仕委員会委員長(会員増強・職業分類)

寶多 英代



「会員増強」を図るために何をすればよいか?

- ・ JC卒業生に早めに声をかける。
- ・ 女性会員を増やす。

- ・ 根気よく勧誘をする。
- ・ 懇親会の催しを増やし例会を楽しいものにする。

この様に、何処のクラブでも頑張っておられます。しかしながら5%増強のハードルは、なかなか越えられません。魅力ある人と交流が出来て、人としての財産をつくる事が出来、自分を鍛える事が出来るというロータリーの魅力を会員各位、新会員、既存の会員の人たちにもっと浸透させ、内から外へ発信することでより多くの人にロータリーの魅力を知ってもらおう。これこそが増強につながるものと思っております。

例会を楽しいものにして出席を促進することも大切です。広報活動をしっかりして認知度を高め、公共イメージの向上に努力することも大切です。メンバーそれぞれが、増強という事についての認識を濃くすることで、5%増強は、達成出来ると思ひます。

皆様のご協力をお願いします。

地区米山「指定校選定委員会」

地区米山記念奨学会委員長 治郎丸 清志

2013～2014年度の米山記念奨学生採用に向けて、選考行事がスタートしました。

6月16日(日)津山国際ホテルに、森本ガバナー、葛尾米山理事、伊藤米山評議員など9名の選考委員の出席の下、「指定校選定委員会」を開催しました。

今年度の奨学生採用数は全体で700名、そのうち第2690地区の割当枠は21名(2年継続奨学生が5名いるため、新規採用枠は16名)ですが、奨学生候補の推薦枠32名(新規採用数の2倍)をどの学校に、何名を割り当てるかを協議した結果、対象校27校から岡山大学、鳥取大学、島根大学、鳥取県立大学など13校が「指定校」として選定され、それぞれに推薦枠を割り当てました。今年の特徴は

「地区奨励校」として津山高専(推薦枠1名)が選定されたことです。

指定校に対して「推薦条件」として、①日本語で意思疎通が出来る学生、②国籍が1カ国に偏らないこと、③ロータリーの行事に積極的に参加し、会員と交流する意欲をもつ学生、④将来に亘り学友として交流を続け、母国と日本の懸け橋として友好親善に努める意欲を持つ学生、を提示しています。

今後12月までに米山記念奨学生候補(32名)が指定校から推薦され、来年の1月13日(月)に開催される「面接選考会」において、厳しい書類選考・面接選考を経て、最終16名の奨学生が採用されます。

文庫

通信

(310号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ロータリーの資料より

◎「リーダーシップについて」	深川 純一	2013	13P	(D.2760地区大会記録誌)
◎「古澤丈作・米山梅吉・和田菊松に関する三題話」	神崎 正陳	2013	5P	(D.2550月信)
◎「ロータリーの初心を訪ねて」	安平 和彦	2013	16P	(D.2680西藩第2グループIM報告書)
◎「元気なクラブになるために(会員増強・維持)」	桑原 茂	2013	9P	(D.2500地区大会報告書)
◎「決議23-34」	鈴木 宏	2013	6P	(D.2550月信)
◎「ロータリーの楽しみ方」	高野孫左衛門	2013	1P	(D.2620月信)
◎「クラブ活性化の戦略計画」	山下 皓三	2013	2P	(D.2730月信)
◎「和訳『ロータリーの綱領』が変わります」	木村大三郎	2013	2P	(D.2670月信)
◎「米山梅吉と5人の群像」	宮崎 幸雄	2013	3P	(米山梅吉記念館館報)

[上記申込先:ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階 TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506
http://www.rotary-bunko.gr.jp 開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

お知らせ

◎ガバナー公式訪問日程の変更

岡山旭川IRC 10月2日(水) → 9月11日(水) A方式
岡山備南RC 10月2日(水) → 9月11日(水) B方式

◎創立記念追加

津山中央RC創立25周年 2014年2月2日(日)
智頭RC創立50周年 2014年5月10日(土)

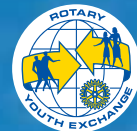
地区だより7月号(Vol.1)に下記の誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

P6・7地区組織図

地区指名委員会 葛尾信弘→葛尾信弘
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会 伊東文利→伊藤文利
地区歴代ガバナー ※松本卓臣→松本卓臣(ご健在)
※森下和郎→森下和郎(ご健在)
新宮彦助→※新宮彦助(故人)

P14 創立記念

美作RC創立50周年 2014年5月31日(日)→2014年5月11日(日)



2014～2015年度

派遣交換学生 募集



2014～2015 年度の地区交換派遣
学生について、募集を開始しますので、
希望者を貴クラブにおいて十分ご検
討のうえ、お申し込みください。

基本事項

- 〔交換地域〕 アメリカ合衆国、またはその他諸外国 〔交換期間〕 2014年8月より1年間 〔人数〕 3名
- 〔資格〕 クラブ会員が責任の持ち得る家庭の子女を対象とし、海外到着（派遣）時、2014年8月末に15歳から18歳以下の学生で、高校1年生程度以上の学力を有すること。
- ◆ 派遣、受け入れともクラブが責任を持つものであること。原則として派遣のクラブにおいて受け入れ、引き受けの義務がある。当委員会の規約に基づかないクラブ独自の交換については地区は関知しない。
 - ◆ 派遣学生については、各クラブにおいて十分な人物選考を行ったうえ、地区委員会（ガバナー事務所内）に推薦し、地区委員会はその中からテストを行って合格者を決定する。
 - ◆ 派遣学生の相手地区への往復の旅費の補助は1人当たり30万円である。相手地区における通学及び生活費は先方が負担する。
 - ◆ 受け入れクラブについては、派遣学生出身の家庭をファースト・ホストファミリーにすることが望ましい。その後は、所属クラブ会員が輪番でその家庭に受け入れ、通学および生活の世話をする。

申し込み期限

各クラブから当委員会への申し込みは、**2013年10月31日(木)必着**とする。

選考日

2013年12月初旬を予定。津山市内において実施。詳細は後日通知する。

〔選考テスト〕 英語（英会話と筆記）・国語（日本語による作文）・面接

申し込み方法

- ◎ 長期青少年交換プログラム申請書（和文・英文）… 各4部（希望クラブはガバナー事務所に申請書を請求のこと）
・ 保護者の承諾書、学校長の人物調査書、医師の健康診断書
- ◎ 本人の履歴書および身上書（家族構成を含む、用紙は市販のもの、本人写真添付のこと）… 4部
- ◎ 学業成績証明書 … 4部
- ◎ クラブ会長の推薦書 … 4部

★詳細はホームページを確認のこと

<http://www.rotary.org/ja/>
【トップページ】→【学生と青少年】→【青少年交換】



■森本信一ガバナー事務所

〒708-0022 岡山県津山市山下98-1
津山社会教育文化財団 内
TEL (0868) 35-2307 FAX (0868) 35-2308
E-mail info@rid2690.jp
<http://www.rid2690.jp/>

（ホームページよりPDFをダウンロードできます。）



みまさかのくに
美作国建国1300年

平安時代に編纂された国史「続日本紀」によると美作の国（岡山県北東部）は和銅6年（713）備前の国の6郡を割いて置かれたとあります。これは国際ロータリー第2690地区第8グループの位置とほぼ重なります。平成25年（2013）は、美作の国が誕生してから1300年にあたります。